

今年は六十干支によると「癸卯(みずのと・う)」にあたり、去年までの様々なことに区切りが付き明るい世界が広がっていくとの嬉しい予測！

ごけい たより
互恵便り 第23号

創業以来100余年、幸せな明日へ祈りの心を…
NS 中谷石材株式会社
〒761-0121
高松市牟礼町牟礼3766-1
電話 087-845-5006



明るく、良い一年になりますように！



写真 中谷石材(株)大川工場 奥野 武

令和五年元旦
富田神社(大川町)
「浦安の舞」
「獅子舞奉納」

富田神社では平成22年頃から「浦安の舞」を元旦に舞うようになり、今日まで続けられています。
この舞いは、「地域の皆で寄り添い協力し合う事が少なくなっている現在、大祭も含め、これからも継続して行きたい。」という思いから平成17年に復活されました。
今年は田面獅子保存会の方々のご協力を得て、昨年新調された獅子頭での獅子舞も披露されました。
どうか、今年は明るく良い年になりますように。

1、今現在も、この冬のコロナ感染拡大の勢いが止まりません。重症化率は下がったとはいえ、みなさま感染には充分にご注意ください。



年頭のご挨拶を申し上げます。 今年も中谷をよろしくお願い致します！



本社横のショールーム前で撮った写真です。このショールームには、当社が選りすぐった庵治石製品が展示されています。いつでもご覧いただけます。お気軽にどうぞ。

お陰様です。

新年、明けましておめでどうございます。本年も社員一同お客様の依頼にお応え出来るよう、心を合わせて頑張つて参ります。昨年同様、変わらぬご愛顧を頂きますようお願い申し上げます。

元旦は好天に恵まれ、穏やかな年明けとなりました。わが家の向かい側には屋島が見え、夜明け前からライトを照らした車が列をなして山上へと上がっていました。昔からの初日の出のスポットになっているので、今年も三百人以上が詰めかけ御来光を拝んだそうです。

正月三が日、全国同様に県内も二年連続で増えて多くの人が出がかり、主要な神社への参拝者数も増えたそうです。

新年の参拝も大切に

私はこのような神社へのお詣りが、氏神様・仏様(ご先祖様)への参りに繋がっていくと思っております。香川の人口の何倍もの方々が

自分の思いの神社にお参りし、それぞれの祈願をされたと思います。この祈願を叶えてくれるのがご先祖をお祀りしている氏神様お墓です。当社も初出勤の朝は、長尾町の宇佐神社に全員で参拝し安全祈願をしてから新年の仕事にかかります。

仕事始めに関してですが、1月2日に行く職業があります。今年の新開では、岐阜県関市の刀鍛冶が「古式日本刀鍛錬打ち初め式」との記事が紹介されました。

私の知るところでは丸亀沖の広島青木石の採掘業者の方が、2日に丁場(採掘場)に行き、石に鑿(ノミ)を截頭(セツトウ)で叩くことで仕事始めとしていました。(現在でも継承されているかはわからないのですが)。

年明けもコロナ禍は第八波の流行になっていて、ウイルスは私たちの生活様式、ビジネス様式を一変させました。過去の常識や習慣が通用しないニューノーマルと呼ばれる社会現象を起しています。

しかし、中谷石材は継承しなければならぬ伝統や文化を守りながら、新しい様式にも対応できる会社として萌芽する年として行きたいと思えます。

社員一同心合わせて頑張ります。今年もご支援よろしくお願い申し上げます。

社長 中谷明生



令和5年。今年も、宇佐神社参拝からスタート！



当社の仕事始めは毎年、宇佐神社への参拝からスタートします。

まず、駐車場あたりでみんなが集まり、「あけましておめでどうございませう。本年もよろしくお願い致します。」と、すれ違う都度に新年の挨拶を交わしていきます。毎年恒例となつていますが、今となれば慣れてしまつていますが、入社当初は、「見たことのあるけど、この人は誰だろう？」とドキドキの連続でした。

駐車場での挨拶が終わわり、みんなが揃つたところで手水で清めてから階段を上り本堂へと向かいます。以前は全社員が本堂へ入つて参拝をしていましたが、今はコロナ対策として20名だけ本堂へ入りご祈禱が始まります。

新しいお守りを身に付けて

独特な言葉とリズムの祝詞を聞きながら、厳肅な雰囲気の中でご祈禱が行われていきます。おわりましたら、頂いたお守りが全員に配られます(コロナ禍前は、御神酒を頂いておりました)。その後、隣り合った社員同士がお正月や仕事の話をしたりしながら階段を降りて行き、その後、それぞれの持ち場へと向かうべく解散となります。

こうして全員が今年の新しいお守りを身に付けて、心新たに2023年がスタートしました。今年も中谷石材を宜しくお願い致します！

情報管理室 渡邊隆志



中谷石材(株)「わたしの仕事」

「手磨き職人」 池 寛幸

初めまして。庵治工場の池寛幸です。手作業で石を磨くのが仕事ですが、業界では手磨き職人と呼ばれています。昭和49年生まれで、48才になります。高校生の頃からアルバイトでこの仕事をしていたので、かれこれ30年この仕事をしています。

高校を卒業して、結婚式場で働きまし。まだ景気の良い時代でした。あるとき、石屋で働く同級生と給料明細を見せ合ったら、友達の方が給料が良かったんです。それなら学生の頃からアルバイト経験があった石を磨く仕事をしよう、と、転職しました。若かったから単純でした。

そこで7、8年経験を積んだ後に独立しました。その当時にはまだ大勢いた、一人親方となったんです。2000年のことでした。

通用しなかった独立当初

独立した最初の年は、本当に苦しみました。ある程度の自信があったのに、まったく通用しなかったのです。

下請けですからお客様から預かった石を磨き、仕上がったものを渡すのですが、それが通用しなかった。返されるのです。磨き直して再度納めるのですが、ここが足りないと言われ、また返されました。

無茶言わんでよ、と思いました。このくらい許してよと憤慨しましたが、相手は決して無理を言っていたわけではありませんでした。石の磨きのことをよくわかっておられたのです。

1年試行錯誤してもうまくいかず、悩み続けました。

当時、手磨きと言えはこの人という名人がいました。その方の仕事は、確かにきれいな仕上がりでした。

私は、人を通じてその方に見学を申し出てみました。職人は同業者の仕事場をあまり見られたくないものですが、快く承諾して下さいました。

私は期待に少し興奮して工場に伺いました。名人の使っている道具を知りたかった。私の知らない道具があるはずで、磨き方の秘訣も知りたかった。

しかし、この地域で第一人者と呼ばれる人が私に見せてくれたのは、ただひたすら一生懸命に石を磨く姿でした。確かに技術は素晴らしい。しかし道具は私と変わらない。むしろ私より少ないくらいでした。ただ、とてもよく整理されていました。

この時、名人がひたすらいいねいに磨く姿を見ているうちに、私はもう何よりも自分が恥ずかしくなりました。こんなに上手い人がこれほどまでひたむきに磨いているのに、技術が足りない自分がやらないでどうするんだ。このとき、目からうろこが落ちました。

名人の磨く姿を見て 自分が恥ずかしかった

それからは無我夢中で、磨きにとりくみました。すると道具のことも分らなかつたことが見えてくるようになってきました。



1年後くらいでしたか、気がつけば返品されることが無くなっていました。あるとき取引先に、「あんたよう変わったな」と言われました。

一人親方で10年ほど仕事をした後、大石産業に入社して仕事をしました。この会社の社長からは、「見えないところを一生懸命やれ」ときびしく言われました。

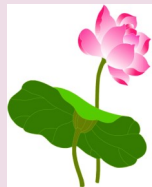
先達の教えに 感謝しながら磨く

私は運が良かったと思います。人に恵まれました。何度も会社の廃業や取引先の倒産にあったのに、その度に「手磨き」という仕事と人が私を助けてくれました。

この仕事はお客様に言葉をかけられることがまったくない仕事です。磨いた石の作品を買った人に会うことはなく、事実私はそういう経験がありません。それでも手を抜くことはまったく考えないです。自分に見えている出来上がりの姿まで、石を磨きます。

それを教えてくれたのは、石の街で生きてきた何人もの先達の方々です。感謝しながら、これからも石を磨かせていただきます。

庵治工場 池 寛幸



自分たちでは墓守が難しくなりましたので 「永代供養墓」へ納骨しました



義姉のお墓は高松市香川町に有りましたが、私も後期高齢者の仲間に入ります。今までには墓守りが難しくなり、

私達では探しようもなく、この度、残る義姉達にもその旨を相談して了解を得ました。当社、中谷石材が建立、管理をしているこの永代供養墓に納骨する事に致しました。

義姉が亡くなり、この1月で23回忌になります。義姉には子供が無く、義兄の兄弟も亡くなり、身内は北海道と和歌山に甥がいるとの事でした。

その頂にある永代供養墓に、このたび私の義姉を納骨させて戴きました。義姉、つまり私の嫁の実姉です。

遠く北の眼下を見渡せば天下の名勝・瀬戸内海国立公園の屋島。その東側には五剣山を見下ろす風光明媚なここは、高松市東山崎町にある、久米山墓地霊園です。

後期高齢者の仲間入りを機に親族と相談



供養墓収蔵の証しに銘石板を側面に設置します。

永代供養をと思い社長に相談して、ここに納めるにいたりました。

お墓のある場所が人様の家の前で、その私有地を通らなければならなかったことを常々心苦しく思っていたこともありました。

しかし、縁とは不思議なものです。ご挨拶にお伺いすると、この人様の家が、なんと、私が60年前塩江中学校の時にお世話になった先生のお宅だったのです。

先生も90才近くになられて耳も不自由になり、会話もおぼつかなくなっておられました。が、今までの無礼を述べて丁重にお礼をして参りました。

人生は正に一期一会、これからも出会いを大切にしたいと思えます。

配送センター 大西達雄

久米山墓地霊園の永代供養墓は、

- ① 合同納骨室(最初から)、② 五年間骨壺収蔵保管(継続可能)、③ 十年間骨壺収蔵保管(継続可能)と、三種類から選べるようになっております。銘板は②の場合に対応するようになっており、③の場合は来れば合同納骨室へ移されます(継続も可能です)。



社内報・字彫課

「菜の花通信」63号より



草むしり事業部と「長期留守宅のお守り」

地域貢献活動第9回目は、草むしりで管理をしている留守宅の掃除でした。草むしり事業部のリーダーは林さん！そして遠山さん、目川さん、河田さん、大川の弓削君と一緒に作業を行いました。

年末なので大掃除も兼ねて、字彫課5人は家の中の掃き掃除・床拭き・窓拭きを担当しました。まずは全員で窓の開放からですが、お客様のお家なので常に緊張感があります。でも、全員で協力しながらの作業はやっぱり早い！

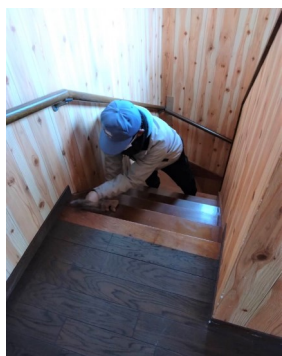
大掃除も兼ねて 丁寧に拭き掃除を

次に床や階段の掃き掃除と拭き掃除です。窓拭きは分担を決めて取り掛かりました。

広いお家で、お部屋も窓もたくさん！外からときどき聞こえてくる、「どうですかあ〜。お昼で終わりそうですかあ〜」という遠山さんの声かけに、途中までは「大丈夫です〜」と余裕の返事をしていましたが、最後の1時間はみんな無言になり、ひたすら窓に張り付いていました。

この日は雪が降っていて、外で草抜き作業をしている人たちはとても寒そうでした。目川さんは、わざとかな？と思うくらいガタガタ震えていましたよ。(笑)

最後に全体の点検をして、無事に予定時間内で終了！作業後はみんな楽しく昼食です。外で作業した後は、つつい食べ過ぎてしまします。気をつけなきゃ、ですね。





「草むしり日記」 No.47

1月12日～14日。草むしり事業部では今年も2泊3日のリーダー合宿を実施して、昨年の反省を基に年間計画を作成しました。お庭もお墓も、安心して当社にお任せください。今年はより一層、みなさまの困りごとにお応えして参ります。



みなさん、こんにちは。草むしりリーダーの佐々木茂綱です。

私は昭和45年(1970年)香川町で生まれました。子供の頃は外で遊ぶことが好きでどちらかというと落ち着きがなかったでしょうが、母一人子一人の家庭でした。

14年間、「施工一筋」からの異動でした

若い頃は土木の仕事を中心に、様々な仕事と職場を経験しました。結婚をして子どもが生まれ、30才を過ぎたあたりから、そろそろ1カ所に落ち着きたいと思うようになりました。

中谷石材に入社したのは、妻の叔父が働いていたことがきっかけです。紹介いただき入社して配属されたのが、施工部でした。それからは施工一筋。今の草むしり事業部に異動するまでは、14年間ずっと施工の仕事でした。

施工の仕事はとても好きでした。墓所も嫌いではないです。疲れているときでも墓所に行くと、気持ち引き締まります。なにか力を分けてもらっている気持ちになるんです。墓所は、私のパワースポットです。

仕事は一生懸命やってきたと、自分では思っています。失敗もありましたが、誠心誠意お客さまのためにとり組んだという自負はあります。夢中でしたね。

草むしりに部署異動になったのは2020年。今年で3年目になります。私は施工の仕事が好きで誇りも持っていましたから、正直言うところの異動は、あまりうれしくはありませんでした。でも気持ちを切り替えて、ここでも一生懸命に取り組んできました。

草むしりを始めてすぐに思ったのは、お客さまとの接点の多さです。もちろんお墓の施工の仕事も、お客さまとお話しする機会があります。しかし草むしりの仕事は、毎日1件ごとにお客さまの声を聞く仕事です。

お庭で作業を進めていくと、どんどん綺麗になっていきますし、それをお客さまが喜んでる姿を見ることができます。「ありがとう」と声をかけていただけることも多いです。自分たちもうれしいものです。

喜びを感じながら！

夏の暑い日などは作業もきついです。お客さまの喜ぶ顔を見たら、仕事させてもらってよかったなあ、疲れも吹き飛ばす感じがして喜びを感じることが多いです。

私のチームは現在6人のメンバーです。みんな2年くらい一緒に仕事していますので、呼吸も合い、仲がよいです。経験を積むことで技術も進化して行っています。

最年長に74才の方がいて、とても元気です。家族も心配されるし、強制的に休んでもらうときもあるのですが、本人はいたって元気で頑張ってくれています。あと2名くらい増員できたらグッと効率が上がると思っているのですが、これが目下の課題です。

もうひとつの悩みは、雨。天気のことでも悩んでも仕方がないのですが、雨がずっと予定の作業が遅れるので、やきもきして居ても立ってもいられません。毎日アメダスで天気をチェックしています。

今年も余裕を持ちたい

趣味はゴルフです。以前は会社の仲間と出かけていたのですが、昨年は一度も行けませんでした。年会費がもったいなかったですね。今年こそはと、思っています。

今年こそは、もう少し余裕を持って仕事をしたい！それが目標です。人員が足りて時間に余裕が持てるとお客さまとお話しもできますし、お客さまの要望以上の仕事ができます。仕事で何って、初めて頼まれる追加の仕事というのがありますが、それを余裕で気持ちよくお引き受けしたい。そう思っています。

とにかく今年も佐々木チームは、仲間同士助け合いながら、お客さまに喜ばれる仕事に一生懸命取り組んでいきますので、よろしくお願ひいたします。

草むしりリーダー 佐々木茂綱

私たちは、今年もみなさまのお役に立ちます！



草むしり.com 高松

フリーダイヤル

0120-148-144



今月の社長のコラム

お蔭様です。

年明け業界の集まりで顔を合わせた折に、こういうお話をされていた方がいらっしやいました。

「時代の流れでお墓を建てる人も少なくなつたのは仕方ないことだが、それでも我々には我々にできる役立ちが、これからもあると思う。」

昔は暮らしのいろいろなところに、石屋が関わっていた。家の土台もそうだし、田んぼの石積みだってそうだ。たとえ昔と同じに戻ることは無理だとしても、石が暮らしの土台となる使い方を探るべきではないか……」

頷(うなず)くことの多いお話でした。

私は行ったことはありませんが、テレビなどの旅行番組を見ると、ヨーロッパは街の中に石がたくさん使われていることに気がつきます。建物にも道にも橋にも石が使われています。あちらは石の文化なんですね。



使用された、3万4千枚の庵治石瓦は圧巻です。昨年10月末、県外からのお客様をお連れして「やしまーる」に行ったときの写真です。庵治石瓦でできた、曲線が美しい屋根に見入ってしまいました。



もちろん日本には素晴らしい木の文化があります。しかし石も、ずっと使われてきました。石で作られたものは、長い年月にわたって使われ続けます。それこそ何百年と人の役に立ちますし、年を重ねて味わいが出て、魅力も増してくるというものです。

もともと自然界にあったもので、何百年も使うことができるとなると、昨今のSDGS「持続可能な社会」づくりにはふさわしい、もっと注目されて良い素材ではないかと思えます。そんなことを考えたりしながら、新しい年の仕事に取り組んでいます。

ロシア・ウクライナの戦争からもうすぐ一年です。今年こそは終息を迎えて平和が戻ってほしいと思えます。

「互恵だより」の互恵とは、お互いに恩恵をはかりあうという意味です。世の中も是非そうあってほしいものですが、まずは自らの周りにおいてそうありたいと思ひ、互恵だよりと名付けました。

お客様、会社で働く仲間たち、取引先、同業者、地域と共に互恵関係を築いていける会社でありたいものです。みなさま、今年も中谷石材をよろしく願ひいたします。

社長 中谷明生

社内報大川工場

「つぶやきパレット」 12月号より



大西浩さん、お疲れ様でした！

先日、大川工場のみんなで大西浩さんの送別会を行いました。大西さんは、中谷石材で15年の長きにわたり、活躍されて来られました。

工場内のみんなで食事に行ったこの日は、大西さんが最初からニコニコと楽しそうでした。そのせいか、お酒のピッチも早く少し心配しましたが無事に北山くんが送り届けられました。

大西さんがいなくなり淋しくなりますが、みんなで盛り上げて、大西さんの穴を埋めて楽しく頑張っていきたいと思ひます。

大川工場 平木伸昌

ここ数年は、病氣治療のための手術などで入院の繰り返しだった大西浩さん。これまで、本当にお疲れ様でした。まだまだ、中谷で研磨の仕事を続けていたかったので、残念……と聞いて残念です。お体を大切に、お元気でいて下さい！



創業以来100余年、幸せな明日へ祈りの心を…

中谷石材株式会社

本社 〒761-0121 香川県高松市牟礼町牟礼3766-1
電話 087-845-5006 FAX 087-845-5062



草むしり.com 高松

フリーダイヤル 0120-148-144

互恵便り 第23号

発行日：令和5年1月27日(金) 発行：中谷石材株式会社